暴露甲板の位置の分類に関する事項

改正要領

鋼船規則検査要領 C 編, CS 編及び D 編
高速船規則検査要領

改正事項

暴露甲板の位置の分類に関する事項

改正理由

国際満載喫水線条約において、乾舷甲板及び船楼甲板上に設けられる倉口、扉及び通風筒の縁材高さは、位置 I 及び位置 II により決定されている。しかしながら、これらの位置の定義においては、高さ方向の上限が規定されていないことに加え、甲板室等の暴露甲板上に設けられる倉口等の取扱いが明確でないことから、IMO において検討が行われてきた。

その結果、位置 I 及び位置 II の定義における高さ方向の上限及び甲板室等の暴露甲板の取扱いを明確にする統一解釈が 2016 年 1 月に開催された IMO 第 3 回船舶設計・建造小委員会 (SDC3) において作成され、2016 年 5 月に開催された IMO 第 96 回海上安全委員会 (MSC96) において MSC.1/Circ.1534 及び MSC.1/Circ.1535 として承認された。

このため、MSC.1/Circ.1534 及び MSC.1/Circ.1535 を参考に、関連規定を改めた。

改正内容

- (1) 位置 I 及び位置 II の定義における高さ方向の上限を明確にした。
- (2) 位置 I 及び位置 II の定義において、甲板室等の暴露甲板も船楼甲板と同様に取扱う旨規定した。

(備考) 暴露甲板の位置の定義

- 位置 I 乾舷甲板及び低船尾楼甲板の暴露部並びに L_f の前端から $0.25L_f$ の箇所より前方にある船楼甲板の暴露部
- 位置 II L_f の前端から $0.25L_f$ の箇所より後方にあり乾舷甲板より標準船楼高さ 1 層分以上上方に位置する船楼甲板の暴露部、又は、 L_f の前端から $0.25L_f$ の箇所より前方にあり乾舷甲板より標準船楼高さ 2 層分以上上方に位置する船楼甲板の暴露部

改正条項

鋼船規則検査要領 C 編 C20.1.2
鋼船規則検査要領 CS 編 付録 1 表 CS
鋼船規則検査要領 D 編 D13.6.4
高速船規則検査要領 7 編 2.1